

## 令和 2 年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況

【令和 2 年度美術館協議会(令和 2 年 12 月 10 日開催)】

## 1 説明事項「令和元年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況(会議資料 2)」について

主な意見要望等	対応状況
アートカードの販売の予定はないのか。	(前回回答) 著作権処理などが必要なため販売は難しい。 (追加回答)鑑賞補助教材としてアートカードや所蔵作品パネルの貸し出しを行っている。今年度は中学校・支援学校合計 5 校に貸し出しを行った。

## 2 説明事項「令和 2 年度事業実施状況(会議資料 3)」について

主な意見要望等	対応状況
企画展は欠かさず観覧しているが、最近、知人から常設展が面白かったという感想をもらったので、今期の常設展第 3 期を観てきた。今までのアプローチと違って、ただ飾るのではなく、自由に触れるという試みは、これまでになかった面白い企画だと思った。特に、素材そのものだけを展示するのではなく、あくまでもコレクションに形を寄せるという準備に時間が掛かったと思う。あまり表には見えないが、相当の努力をされたと感じたので、今後の企画も違った形で提示していただきたい。	(前回回答) 質感、素材を味わっていただきたいということで、コロナ禍の状況の中、ハンズオン展示をすることに対し、色々議論したが、こういう状況ではあるが対策を万全にしながら実施していこうということになった。素材の準備についても、館を挙げて取り組んだ結果が説得力のある展示となったと思っている。実際、作家にもお願いし、サンプルを提供していただくなど、スタッフの思いが伝わる展示となっている。 (追加回答)今年度のコレクション展においても、特定の作家や新収蔵品の紹介に加え、作品の表現方法や岩手の美術史といった、多様なテーマによる特集展示を行っている。
第 3 期展示も良いが、第 1 期、第 2 期も良かった。友の会の会員からは、常設展示が良いという声を多く聞く。この頃、自由度が凄い。意外な組み合わせの展示など、見応えがあった。今後、コレクション展示と名称変更することのだが、広報の仕方一般の方に分かりやすいチラシの作成やネーミングの付け方などを工夫すれば良いと思う。見せ方次第で常設は良い展示になると思う。	(回答)コレクション展については、美術館ホームページや SNS 上での掲載、ラジオ番組での紹介等を随時行っている。また館内でも常設エリア入口付近にコレクション展ポスターを設置し、お客様を誘導できるような工夫を行っている。

<p>常設展のアピールをもっとしても良いと思う。展示を誰が企画したか分かるような担当者の名前を表記し、コメントを出せば、親しみを持って観てくれるかもしれないと感じた。企画展についてだが、駒形克己展については、企画者の展示デザインのセンスがすごく光っていたと感じた。東山魁夷展については、宮城県美術館と同じ展示構成なわけだが、この建物の展示室の広さをいかに生かすかで、同じ内容でありながらイメージがかなり違ってくるので、面白く拝見させてもらった。企画・常設展示とも学校教育の場でも活用できる内容なので、学校現場の教員にも広く知っていただきたい。また、説明の中で観覧者数や参加者数の話が出て、良く理解できた。目標を達成したのは良かったと思うが、人数だけではなくて、美術館としての評価目標を示していただきたい。</p>	<p>(前回回答) ご指摘のとおり数値だけでは判断できないし、本質は見えてこないと思う。展覧会については、誰に来てもらいたいかなど、内容を詰めて提示できれば良いと思っている。今の段階では回答できないが、意見内容は良く理解できた。</p> <p>(追加回答)今年度から「常設展」を「コレクション展」に名称を変更して開催している。月2回、収蔵品を紹介するコレクショントークを実施している。展示替えを行った際は、館内ポスター掲示のほかに、美術館ホームページ、SNS、ラジオ番組などで発信をしている。美術館に来ていただくお客様には、優れた作品を観て親しんでいただきたいと考えており、その満足度を評価目標としてアンケートなどで把握し、今後の企画展・コレクション展に活かしていきたいと考えている。</p>
<p>今年はコロナ禍の影響が相当あったと思う。臨時休館と2本の企画展の中止は、辛かったと思う。その中でも9月からは駒形克己展を開催するなど、美術を親しむ場を提供してもらったことに県民の一人として感謝するところである。東山魁夷展については、自分の周りでは行ってみたいという声を良く聞く。ただ、コロナが怖くて中々足が向かないと、高齢の方々から聞く。色々対策を講じていると説明があったが、不安に思っ足が向かないという状況もあるので、もう少し広報する必要があると思う。</p>	<p>(前回回答) ご覧いただいたとおり、対策については最善を尽くしているものと考えている。安心して来館いただけるよう広報を展開していきたいと考えている。</p> <p>(追加回答)感染症拡大防止対策の取り組みについて、最新の情報をホームページ等でお知らせしているほか、各種会議やイベントPRなど機会あるごとに広報活動を行っている。</p> <p>今後、新たな変異株による感染拡大も予想されるため、引き続き状況を踏まえながら適切な感染拡大防止対策を講じるとともにその周知を図っていききたい。</p>
<p>安らげる空間になっていると思う。感染対策も厳重にされていて、担当者が付いて検温や連絡先の記入などを対応していることに安心を与えられた。このことについて、広報した方が良いと思う。</p>	<p>(回答)同上</p>

<p>今、子供たちの行動が制約されている中で、親として子供とどのような体験をすべきか模索している時に、アートデオヤコは、小さい頃から芸術、美術、色々なものに触れるなど、子供の頃からの習慣付けは、大人になってからも大事に育てていくものなので、この機会に美術館が安全で安心、感性を育てていく場所であることを広く知って頂けたら良いと思う。広報の仕方を考えていただきたい。</p>	<p>(回答)各種ワークショップについては、可能な範囲で対象や内容を広げて実施しており、その都度、チラシや当館ホームページ、ラジオ番組等、幅広い媒体で広報している。今後も引き続き、予算の範囲内ではあるが、広く広報していきたい。</p>
--	---

### 3 説明事項「令和3年度事業実施計画（会議資料5）」について

主な意見要望等	対応状況
<p>アウトリーチ事業について、出前授業してもらったが、来年の東北造形教育研究大会で鑑賞授業を実施することになっている。県立美術館の職員に作品を観る目を育ててもらいたいと考えて出前授業を実施してもらった。子供たちが自分たちなりの見方に自信を持てるようになった。担任が授業参観でも出前授業と同じように実施したことで、保護者も作品を観ることはとても楽しいことと、刺激を受けて喜んで帰られた。できれば、引き続き県立美術館と連携していきたいと考えており、県立美術館の所蔵作品の中から鑑賞作品として取り上げて、東北各県の教員にも見て貰えるような授業を作り上げていきたいと思っている。大分前になるが、県立美術館で開催された油絵講座で刺激を受けたし、参加して楽しかったので復活してほしいと思っている。</p>	<p>(前回回答)今の件については、昨日、担当から報告を受けた。美術館としても協力できることは実施していきたい。</p> <p>(追加回答)東北造形教育研究大会の鑑賞授業に直接関わることはなかったが、昨年度行ったアートカードを使用した出前授業がきっかけで、作品を見る視点が育ったということを担当の先生からお聞きしている。</p> <p>また、油絵講座については、今年度、コレクション展第2期の特集「抽象表現の楽しみ」に関連して、当館コレクション作家である画家の細川憲一氏を講師にお招きし、油彩による抽象絵画のワークショップを開催した。今後も機会があれば、展示の内容により、関連講座として実施したい。</p>
<p>来年3月で震災から10年過ぎることになる。震災10年を過ぎることで、関連事業について来年度の企画展には盛り込まれてはいないようだが、常設展や特別展示などで考えていることがあれば、説明いただきたい。</p>	<p>(前回回答)企画展については、震災を意識したラインナップを組んでいる。4本目の「本城直季展」がそれであり、写真家なので震災後に東北に足を延ばされて撮影されたシリーズの作品も初公開になるなど、意識した部分もある。震災と美術というような大きいテーマを設定するのは難しいので、特段そのようなテーマでは組んではないが、10年という節目から意識はされるものの、前面に出す展示はすごく難しいと思っている。</p> <p>(追加回答)令和4年度に開催予定の「岩手の現代美術家たち(仮)」展では、震災からの10年間で、大きく変化した私たちの世界を、作家たちがどのよう</p>

	<p>に捉えてきたかを作品によって迎えることをテーマの一つとしている。</p> <p>(前回回答) 県から趣旨や具体的な指示があれば対応できるのだが、現状では企画展のラインナップの中で意識しながら進めたいと考えている。</p>
20周年と絡めて考えることはできないのか。	<p>(前回回答) 20周年としての位置付けは、現代美術家として世界でも評価の高い「菅木志雄」氏の展覧会を企画している。岩手の美術と言えば、近代美術が強いようなイメージもあるが、現存の作家が活躍しているということ発信していきたいという考えから20周年記念と位置付けたものである。震災の関係では、当館は陸前高田市で所有していた美術品を預かっており、文化財レスキューを終了した後の処置の経過も常設展示で紹介をさせていただいた。</p>
20周年を迎えるに当たってお願いしたいことがある。それは、どんな行事に何人参加したか、どんなことをやったかだけではなく、20年間普及活動を続けているということによって、参加者がどのような影響を受けたかを目に見える形にすることは難しいと思うが、20年間の普及活動の成果をまとめたい。うで示していただきたい。	<p>(前回回答) 意見のとおりだと思う。20年間の活動の検証は、是非実施したい。</p> <p>(追加回答) アンケート結果を見ると、新規参加の方も含め、どのイベントも満足度は高く、一定の成果はあるものと考えている。このような普及活動を契機として、より多くの方々が美術館に親しみを持っていただけるように、内容を検証しながら事業を進めていきたい。</p>
「菅木志雄」展が20周年記念の冠が付いたことは素晴らしいことだと思う。岩手県出身の作家で現在活躍中の作家にスポットを当てたことは、とても有意義なことだと思う。これからも県内美術を盛り上げるような取組みを期待したい。	<p>(回答) 令和4年度には岩手の現代作家たちを対象にした展覧会を計画している。今後も県ゆかりの作家たちに関わる展覧会を開催していきたいと考えている。</p>

#### 4 説明事項「令和3年度企画展概要について（会議資料6）」について

主な意見要望等	対応状況
<p>岩手県ゆかりの作家という観点から企画もコレクションも充実していると思う。子供たちが、なかなか美術館に足を運んでくれないという資料の説明があった。友の会内部でも学生、児童の料金を無料にできないのかとの意見も出ている。20周年という節目に、岩手県という枠にとらわれなくても、子供たちが気軽に来れるようなシンボルを選んで設置してほしい。</p>	<p>(前回回答) この意見は収集に関することなのだが、岩手県立美術館としては近代から現代の岩手県出身、ゆかりの作家の収集を大きな柱として取り組んでいる。したがって、(親しみやすく人気のある作品をシンボルとして据えるということは、) 他館のように簡単にできないという実情にある。このことは、岩手県立美術館としてのコレクションの拡充という課題があるので、今後検討していきたい。</p> <p>(前回回答) 岩手県にゆかりのあるという収集の解釈を拡げるとか、子供たちが楽しいと思ってくれるような作品を収集するなど、検討していきたい。</p>

<p>「菅木志雄」展は非常に楽しみである。通り一遍の解説ではなくて、県民目線で説明するのは難しいと思うが、県民に菅さんの良さを広めるような工夫をしてもらうなど、可能であれば小学生の鑑賞教育的な取り組みをお願いしたい。</p>	<p>(前回回答) 馴染みがない作品が多いと思うので、(収集については、) 先ずは県の職員に理解してもらおうのが先決だと考えている。 (追加回答) SNS やラジオ広報において菅作品の魅力を発信していきたい。</p>
<p>今の話は、美術館が郷土の作家を育てているという印象を持った。また、それを一生懸命応援したいし、皆を引っ張って行けるものであればいいなと思った。</p>	<p>(回答) 美術館では定期的に県ゆかりの作家を対象とした展覧会を企画しており、また作品収集の際には、対象作品の持つ魅力について説明した資料も作成している。今後も、より多くの方が岩手の美術の魅力に気付いてくれるように、取り組みを進めていく。</p>

## 5 協議事項「岩手県立美術館の運営」について

<p>主な意見要望等</p>	<p>対応状況</p>
<p>美術館を運営していくうえで、リピーターの集計は必要だと思うがどうか。本校の教員から青森県立美術館の鑑賞手帳の提供があったので、本日持参したが、このようなものがあれば、単発で美術館に来るという発想ではなくて、積極的に美術館で色々な企画を観ながら美術に親しむことも可能なのかと思う。この類のものは当館にあるのか。また、他館の取り組みなどに関して情報収集は行っているのか。</p>	<p>(前回回答) 他館からの取り組みなどの情報収集は、継続的に行っている。また、定期的に資料の送付もある。リピーターについては、数字としては捉えにくいですが、常設展が充実している館でもあるので、松本竣介を見に来た、舟越保武の作品に会いに来たという、繰り返して来館される方が多い。 鑑賞手帳については、将来的にはデジタル化したもので対応できないかを検討している段階である。</p>
<p>むしろ、このようなことは教育現場が作成して、鑑賞を進める教育の一環としてすべきことであると思う。特に高校生などが、このような形に残るのが収集として自分の中で出来ていくことが動機付けとしては、他の取り組みとして良いと思いついたものである。 県内では美術教育を受けられない機会の高校もある。学校現場に出向くことは難しいという説明は理解できる。現場の教員が美術館で勤務していることは、全県に美術を普及させることは必要だと思うが、鑑賞者の育成の観点からも人材育成からもお願いしたい。</p>	<p>(前回回答) 人材育成については、簡単ではないという認識でいる。</p>